

支 頤 眺 雲 煙

頤あご（あご）をおとが支ついて 雲煙を眺のぞむ

作者のことば

良寛様の漢詩の一節です。大きな石の上であごを支えて雲煙の流れを眺める。大らかな言葉に惹かれ書きました。何かと慌しい今日ですが、こういう気持ちも大切に毎日を過すごしていきたいものです。

氏名（平友 大蔵）